

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2009・12 vol.401

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉



色彩豊かな紅葉を迎える岩手医科大学附属花巻温泉病院（10月28日撮影）

〈撮影：画像情報センター 撮影場所：ホテル紅葉館〉

おもな内容

- 巻頭言／健康管理センター長就任のご挨拶 医学部整形外科学講座教授 嶋村 正
- 特集／「がん患者・家族サロン」ってどんなところ？
- 職場内保育園（なかよし保育園）「食育」の紹介
- 連載／当院認定看護師の紹介(7) 新生児集中ケア認定看護師 関 弘昭
- すこやかスポット歯学講座 No.11 「CT を用いた口腔領域に発生する疾患の画像診断について」

健康管理センター長就任のご挨拶

健康管理センター長
医学部整形外科学講座教授

嶋 村 正



此

の度、酒井明夫先生（神経精神科学講座教授）の後任として、平成21年6月1日付で健康管理センター長を拝命致しました。平成17年設立時の初代鈴木一幸先生（内科学講座消化器・肝臓内科分野教授）から3代目となります。皆様のご指導とご支援をいただきながら、現在、所属職員は学生と職員約4,800名の健康管理業務にあたっております。諸業務課題を詰めながら、一步一步進めてまいりたいと思っておりますので、職員一同への更なるご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

世

界に冠たる平均寿命（余命）の本邦においても、健康寿命の啓発、浸透の中で長命と長寿の相違が明確化され、広く世に認知されることとなりました。ADL・QOLの量・質の観点から、最近では格（MOL meaning of life：生存の意味・意義）の観点へと展開しております。生体活動の恒常性（健康）は、身体としての神経・内分泌・免疫系と主体としての意識・情動・気憶によることから、痛み（非健康）の要素とされる身体（生存）的、心理的、社会的、靈魂（実存）的評価と同じ視点での総合的評価が必然と考えられています。

健

康不全には本人と社会の不具合が併存することが否めないため、健康回復にも増して健康保全の重要性が提唱され、学校や職場における健康への対応が近年、必須要件となりました。現在、健康診断の実施は事業者の、その受診は学生あるいは職員の義務要項と解されるようですが、何よりも各個の健康管理は“自利利也”にはかならないことの自覚が最も大切と考えられます。

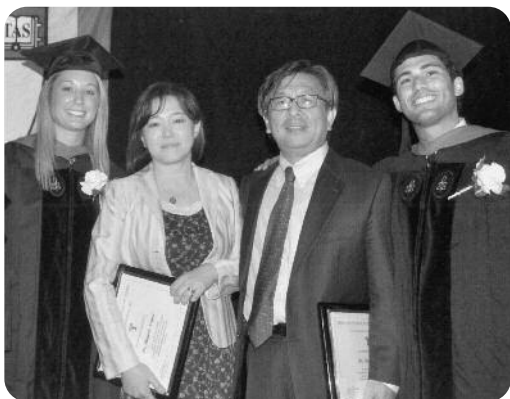
健

康管理センター業務は、定期および特定健康診断、カウンセリング、救急対応および応急手当を中心とした各方面の業務を、学校医、産業医、看護師、臨床検査技師、事務員の方々のご支援を得て、看護師、保健師、臨床心理士計7名のスタッフが担当しております。時間的には経年的学生数増加と矢巾地区対象者増加が、空間的には内丸、矢巾、花巻地区併存が当面の大きな課題と考えられます。これらを背景とした当センターの活動には、関係各位の皆様の尚一層のご理解とご協力が不可欠要件ですので、此の件重ねて宜しくお願い申し上げます。

表彰の栄誉

ー 海外で活躍する卒業生 ー

永井 成美 先生（歯学部第12期）ハーバード大学歯学部「Best Teacher 2009」を受賞



左から2人目が永井先生

本学歯学部第12期の永井成美先生（現ハーバード大学歯学部教授）が、ハーバード大学歯学部「Best Teacher 2009」を受賞しました。

この賞は、卒業する学生たちが、印象的な授業を行った先生や、学生へ献身的な貢献をしてくれた先生に対し感謝を込めて贈るもので、永井先生は「3年連続受賞」となります。

永井先生は、昭和57年に歯学部を卒業後、本学歯学部歯科補綴学第二講座に20年在籍しました。その間、同講座助手、講師及び第二補綴科外来医長を務められました。

現在は、ハーバード大学歯学部教授として、臨床・教育・研究の体制で働いています。永井先生の今後益々のご活躍が期待されます。

高橋 勝雄 薬剤部長 薬事功労者厚生労働大臣表彰を受賞

平成21年度の薬事功労者厚生労働大臣表彰に、本学薬剤部長の高橋勝雄先生が選ばれました。薬事功労者は、多年にわたり薬事関係事業の発展向上に貢献し、薬事行政の推進に顕著な功績があった人（団体）に対して贈られるもので、毎年「薬と健康の週間（今年は10月17日(土)から10月23日(金)までの1週間）」に合わせて発表、表彰されています。

高橋先生は、岩手県薬剤師会の役員を歴任するなかで、常に病院薬剤師と開局薬剤師の接点となり、岩手県における医薬分業の推進に貢献してこられました。また岩手県病院薬剤師会の会長をはじめ長年役員として、岩手県における病院薬剤師の職能向上と組織力の育成に尽力されるとともに、本学薬剤部長として地域医療に多大な貢献を残してきました。

現在は、本学薬学部臨床薬理学講座教授としてもご活躍され、岩手県における薬学教育の発展に寄与されることが期待されます。



佐々木隆夫 監事 秋の叙勲「瑞宝小綬章」を受章 文部科学大臣表彰（生涯スポーツ功労者）を受賞



本法人の佐々木隆夫監事は、公共的な業務に長年従事して功労を積み重ねた人に贈られる平成21年秋の叙勲「瑞宝小綬章」を受章しました。また、地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者に文部科学省が贈る「生涯スポーツ功労者」の平成21年度表彰を受けました。

佐々木監事は、昭和33年3月岩手大学学芸学部卒業後、盛岡市職員として平成7年9月まで勤務されました。その後、盛岡市助役を平成15年9月まで務められ、平成17年1月に本法人監事に就任しました。また、バトミントン界への貢献も顕著で、岩手県バトミントン協会の理事長や副会長、全日本レディース連盟顧問などを歴任してこられ、現在は、岩手県バトミントン協会顧問を務められています。

今後益々の多方面に渡るご活躍が期待されます。

特集

「がん患者・家族サロン」って どんなところ？

本学附属病院は、平成20年2月、「岩手県がん診療連携拠点病院」に指定されました。これは、岩手県のがん診療のリーダーとして、地域拠点病院を含めた基幹病院に対して、診療応援・相談・連携、人材育成・派遣・研修など様々な責務を果たすことを目的に指定されたものです。

本学附属病院では、平成19年9月に「腫瘍センター」を設立し、外来化学療法・緩和医療・がん登録の推進や診療連携・患者相談・情報発信などの分野において、各診療科の枠を越えて連携し、質の高いがん医療の提供のため活動を行っています。

大学報第391号（平成20年4月発行）の特集では「腫瘍センター」を紹介しましたが、今回は、平成21年4月に開設された「がん患者・家族サロン」について腫瘍センター看護師長の長澤昌子さんに紹介して頂きました。



腫瘍センター看護師長
緩和ケア認定看護師
長澤 昌子 さん

Q1：がん患者・家族サロンはどんなところですか？

「がん患者・家族サロン」は、がん患者およびその家族に対する精神面を中心としたケアの充実を目的に、西病棟3階のエレベーター側に開設された場所です。このサロンは、主に3つの機能があります。

①情報交換や親睦の場

1番の機能として、がん患者さんやご家族同士の情報交換や親睦の場を提供することです。サロン内には、当院看護部OGである専従スタッフや患者団体のボランティアがいて、利用者の話し相手になっています。

②情報収集

がんに関連する様々な情報収集が出来ます。サロンには、がんの治療や症状への対処方法に関する書籍やパンフレット、インターネットなどを備えています。

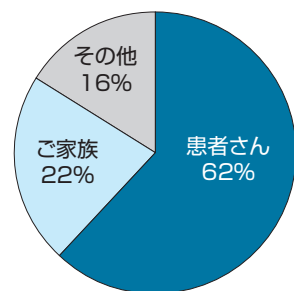
③よろず相談

がんに関する「よろず相談」ができます。相談には、薬剤師、栄養士、医療相談員、看護師が日替わりで担当し、「ちょっとこんなこと聞きたいんだけど……」というような小さな疑問も気軽にご利用いただくようにご案内しています。

対応できる時間は、13時30分～16時30分です。予約不要・無料です。



Q2：開設して半年になりますが、利用状況はいかがですか？また、患者さんやご家族の反応は？



サロン利用者の内訳

2009年4月から8月までのサロン稼働日数は99日で、この間にご利用いただいた延べ人数は956名（1日平均9.7人）でした。利用者の内訳は左記グラフ（その他：患者会、医療関係者、学生など）のとおりで、患者さんの受診歴を見ると、当院に入院中の方が67.6%で最も多く、当院に通院中の方が25.3%、他院で加療中の方が4.9%でした。ご家族に関しても患者さんと同様の傾向で、当院に入院中の患者さんのご家族が最も多く54.9%ですが、当院で加療していない患者さんのご家族のご利用も12.1%ありました。

ご利用いただいた方からの声を聞くと、「とても入りやすく、調べものなどもしやすい雰囲気だった。」「ラジオで聞いて、一人で抱え込んでいた悩みを相談に来た。心の支えになり有難い。」「よろず相談で詳しく説明してもらい、大変助かった。また来たいと思った。」など、概ねよい評価をいただいております。一方、「サロンの情報をもっとわかりやすく、手に入りやすいようにしてほしい」、「無記名で家族の抱えている問題を発信してほしい」などのご意見もいただいておりますので、今後検討していきたいと考えています。

Q3：専従スタッフの対応状況と、よろず相談の利用状況はいかがですか？



よろず相談の様子

専従スタッフの対応状況は様々ですが、サロンの機能に合わせて3つに分けると、「傾聴・交流」が最も多く56%、「情報収集のサポート」が26%、「相談」が18%という内訳になっています。相談に関しては、専従スタッフによる対応で相談者が解決の方向性を見いだせる場合も多いのですが、会話の中で利用者が相談すべきことを明らかにできる場合もあり、専従スタッフは利用者が「よろず相談」を受けられるようにサポートする役割も果たしています。

4月から8月までのよろず相談の利用は、53件（1月平均10.6件）で、職種毎の内訳は、栄養士17件、医療相談員14件、看護師13件、薬剤師9件でした。

Q4：今後の展望をお聞かせください。

「がん患者・家族サロン」は、当院が岩手県がん診療連携拠点病院として「患者目線のがん医療」を実践するために開設されました。開設から6か月が経ち、9月30日に「がん患者・家族サロンだより」の創刊号が発刊され、半年間の利用状況など様々な情報を広く発信できることになりました。これからも、利用する側の声に耳を傾けて、よりニーズに合ったサロンが運営できるように努力していきたいと思います。

また、9月26日に登録ボランティアとの交流会を開催しましたところ、ボランティアワークショップの定期的な開催を望む意見もありましたので、検討していきたいと考えています。



ボランティアによる手作り帽子

サロンのスタッフ

【よろず相談担当者】



専従スタッフ

私たちが
お待ちしております。



栄養士

私たちが
対応
します。



薬剤師



事務員



看護師



医療相談員

《岩手医大での治療の有無にかかわらず どなたでも利用できます。》

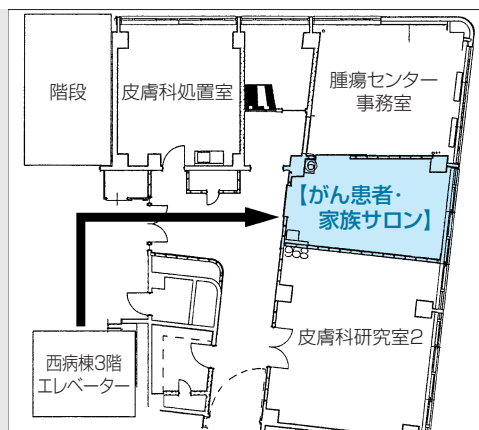
- 利用時間 月曜日～金曜日 10時30分～16時30分
- 場 所 岩手医科大学附属病院 西病棟3階（右図参照）
- 問い合わせ先

岩手医科大学附属病院「がん患者・家族サロン」

TEL：019-651-5111（内線3788）

FAX：019-653-6119

URL：<http://www.iwate-med.ac.jp/hospital/gancenter/>



岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は1回目の御芳名紹介です。(平成21年7月1日～平成21年10月20日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等(6件)

<10,000,000円>

日本赤十字社 八戸赤十字病院(青森県八戸市)

<1,000,000円>

医療法人朝陽会わたなべ肛門科クリニック(盛岡市)

医療法人 社団 仁徳会(宮城県大崎市)

<御芳名のみ記載>

医療法人社団仁裕会木村耳鼻咽喉科医院(東京都練馬区)

有限会社シマダ薬局(北海道函館市)

株式会社 寿広(盛岡市)

(受付順、敬称略)

個人(142件)

<5,000,000円>

大堀 勉(役員)

亀井 俊也(医36)

<2,000,000円>

徳永 三郎(他34)

<1,000,000円>

小川 彰(役員)

金子 勝(医27)

斎 弘行(医14)

小笠原 善郎(医34)

近野 美穂子(父母)

齋藤 文彦(医10)

鳴海 新(医23)

福岡 徳生(医10)

<500,000円>

山内 広平(教職員)

坂牛 栄治(専17)

松本 博隆(医26)

吉成 毅(医34)

能戸 清(医1)

<200,000円>

中野 町(父母)

水元 修治(医12)

渡邊 重視(父母)

川村 隆夫(医3)

<100,000円>

田中 良一(教職員)

川村 英喜(父母)

吉岡 邦浩(教職員)

中村 久(父母)

黒澤 秀光(父母)

青木 満(父母)

江原 謙輔(医58)

保科 弘毅(医20)

山口 一彦(医17)

塚原 浩一(専14)

須崎 康成(専11)

榎本 秀夫(父母)

中舘 勝寿(元職員)

堀江 寛(医10)

渡邊 一夫(父母)

鈴木 聖治(父母)

若林 武文(父母)

大野 新一郎(医47)

鈴木 明子(父母)

根本 龍司(医27)

八重樫 由美(教職員)

中尾 衛(医15)

上里 忠司(医23)

小笠原 真弓(医32)

小笠原 真(医31)

渡部 恒(医4)

山本 覺(医28)

豊田 敏秀(医30)

川村 孝仁(医47)

日野原 茂雄(医13)

梅村 芳文(医29)

児野 正明(歯13)

高橋 義郎(専18)

佐野 義紀(父母)

鳥羽 有(医42)

<30,000円>

遠藤 茂(父母)

<10,000円>

郷 鵬(教職員)

植松 稔(他62)

<御芳名のみ記載>

白鳥 孝之(歯2)

江原 茂(教職員)

吉田 研二(教職員)

古川 重勝(父母)

吉田 彰英(歯25)

下田 靖行(父母)

下田 美智代(父母)

小野 繁(名誉教授)

斎藤 恵子(他74)

松林 茂美(父母)

新田 義人(父母)

佐々木 純(名誉教授)

松本 三千夫(医27)

有吉 徹(医1)

谷津 善昭(父母)

八丁目 直寛(父母)

山田 芳弘(父母)

境田 豊(専16)

有塚 史郎(医21)

満枝 和郎(医25)

川上 淳(医2)

大井 清文 (医32)
大井 光子 (医33)
菊池 隆 (歯25)
菊池 紫織 (歯21)
千葉 純治 (父母)
谷本 淳 (父母)
白岩 和香苗 (医49)
佐藤 良友 (医8)
武藤 万男 (専19)
村上 恵美子 (歯4)
佐藤 久伸 (教職員)
松本 直彦 (専7)
渡邊 研二 (医25)
對馬 正孝 (父母)

佐藤 徳次 (父母)
松井 博幸 (父母)
檜村 博康 (医15)
直江 寿一郎 (父母)
増子 強 (歯17)
曾根 美雪 (教職員)
山田 宏之 (医31)
小野寺 弘 (医21)
菊島 一仁 (父母)
谷口 優 (父母)
昆 宰市 (名誉教授)
中川 潤 (医27)
日下 純男 (医14)
鈴木 明 (歯17)

古田 隆史 (医34)
池田 聖 (父母)
塩原 雄二郎 (医24)

及川 博隆 (教職員)
(受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区 分	申込件数	募金金額(円)
主 陵 会	106	26,280,000
在 学 生 ご 父 母	54	8,640,000
役員・名誉教授	6	8,100,000
教 職 員	19	1,720,000
一 般	12	10,200,000
合 計	197	54,940,000

(平成21年10月20日現在)

教職員必見

大相撲の横綱審議委員で脚本家の内館牧子さんは、昨年12月6日、岩手県盛岡市で上演された盛岡文士劇に出演後に体調を崩し、救急車にて本学附属病院循環器医療センターに搬送され緊急手術を受けました。

現在は、定期的に検診されていますが、療養から復帰され活動されています。

左記掲載記事には、内館さんが入院されていた時、当院看護師に助けられ、元気づけられ、治癒への力をもらったことが記されています。

日夜、献身的な看護に励む看護師のみなさんにとって、非常に励みとなる記事です。また、当院看護師の活躍を、教職員のみなさんにもぜひご覧ください。

〔2009年11月1日付 秋田魁新報掲載〕

私は心臓弁や動脈の緊急手術で、岩手医大に3カ月も入院していたが、退院後にいろいろなメディアから取材依頼があった。そのテーマというのが、なぜか、「病氣から学んだこと」ばかりなのである。私が「病氣から学んだこと」は、心臓のしくみと働きである。だが、相手が望む答えは、人生観や価値観の変化であったり、愛や反省や謙虚であることの大切さというふうなものらしいのだ。なのに、

私はこれまで病氣とは無縁で、手術も入院もしたことがない。それが旅先の盛岡で倒れ、まったく未知の岩手医大に搬送された。当然、誰もが心細いだろうと心配したという。ところが、実は全然心細くなかった。その大きな理由の一つは、看護師の存在である。患者というのは看護師にこそ助けられ、治癒への力をもらうものかと驚いた。



「遠慮しないでね。すぐには来られないこともあるけど、まずはコールして」と言ってくれたり、検査

看護師に力をもらおう



が恐くて緊張していると、病室のカーテンを開け、「ワ、岩手山に雲ひとつないわ。寝起いいてすよ」と明るく言ったりする。勤務の中、患者の心中を察して動くのは本当に大変なことだろうが、それによって助けられたことは数限りなくある。

「看護師って人を察することから技術まで求められる大変な仕事で、でも彼女たちの力はすごい大きい」とすると従妹は即座に、「看護師を見る、その病院のレベルがわかるって言われているのよ。岩手医大の看護師さん、いいよね。うわっ同じくらいいい」と言っていて胸を張った。

は、神々しくさえあった。これから臨床実習が始まり、やがて卒業して病院に入る彼女たちは、きっと多くのことを求められ、勤務につぶされそうな日々に入っていくだろう。だが、私は実体験から断言したい。看護師によって、患者は治癒の力をもらうのだ。看護師によって、その病院のレベルがわかるのだ。

さうには臨床技術にも助けられた。私は針を刺されるのが極端に恐く、採血や注射のたびに大騒ぎだった。だが、うまい看護師だと「え、もう終わったの?」と。こんなことを思い出したのは、本紙で県立衛生看護学院と中通高等看護学院の戴帽式の記事を見たからである。キャンダルを持った看護師の一年生の写真掲載

た、それほど大きな仕事であるだけに、彼女たちの待遇を少しづつでもよくしてほしい。「人々の幸に身捧げん」と、ナイチンゲール誓詞を唱和する彼女たちの熱意と心意気だけに甘えるのは間違っている。行政はぜひ「看護のしくみと働き」を学び、待遇で示してほしいと思う。

〔脚本家、秋田市出身〕
毎月第1、第3日曜日に掲載

職場内保育園 (なかよし保育園)

「食育」の紹介

なかよし保育園では「食」にかかわることをとても大切にしています。今回は保育園での「食育」の様子をご紹介します。

① 給食室から

～心のかよう給食作り～

当園では栄養士1名、調理師2名で離乳食から幼児食まで、一人ひとりの子供の発達の段階に合わせて食材の種類、切り方、調理方法を細かく配慮しています。また、近年多く見られるアレルギー児に対しても、医師の診断のもと除去食を提供しています。できるだけ安全で旬の食材を使用し、昔ながらの米を主食とした伝統的な和食中心の献立ですめています。子供たちが一番楽しみにしているおやつも手作りにこだわっています。

味付けは素材の味を活かすようきちんとだしをとり、薄味を心がけています。だしの匂いや食べ物の匂い、食材の切る音に誘われて、毎日給食室のカウンターからお手伝い（玉葱の皮むき、ピーマンの種取り、だんごまるめなど）をしてくれています。自分たちで作って食べる楽しさや、食べ物に関心を持ってもらうように、



玉葱の皮むきをお手伝い

クッキングや畑作りにも保育士と協力して取り組んでいます。さらに、食べた物が体の中でどんな働きをしているか子供たちに分かるように、食材を赤（体をつくる）黄（エネルギーになる）緑（体の調子を整える）の三色食品群に分けて、バランス良く食べる方法を指導しています。

毎月のお誕生会や行事食では、いつもより楽しくおいしく食事ができるように切り方や盛り付けを工夫して、目で見て楽しい食事作りを心がけています。8月のお誕生会では『イワナ焼』をし、年長児になると頭も骨もまるごと食べれるようになります。これは小さい頃から食べやすいものだけではなく、固い物や食べにくい物を食べる経験を積み重ねた結果できることだと思います。



《子供の日のランチ》

- たけのこご飯
- 新キャベツとわかめのスープ
- こいのぼり春巻き
- トマトとブロッコリーのサラダ
- おやつ（桜餅、イチゴ）

食事はただ空腹を満たすだけでなく、心のかよった食べ物を友達と一緒においしく食べることによって、苦手なものでも食べてみようとする意欲や食べられた満足感を得ることができます。

医療現場で日夜働く忙しい親御さんたちの現状を踏まえながら、保育園では子供たちが心も体も豊かに育ち、健やかに成長してほしいという願いをこめて、今後も『食』に取り組んで行きたいと思います。



イワナ焼を楽しむ子供たち

② 保育室から

～0歳児タンポポ組～

0歳児タンポポ組では、現在6ヶ月から1才5ヶ月までの11名と保育士3名で生活しています。“よく眠り、よく食べ、よく遊ぶ生活リズム”を基盤にゆったり丁寧に保育しています。

4ヶ月児は、まだ睡眠と授乳が中心ですが、機嫌のよい時は“赤ちゃん体操”をしたり、外気浴も行っています。また、10ヶ月～1才5ヶ月児は、天気の良い日は乳母車に乗って散歩に出かけたり、靴を履いて自由に探索活動をしています。草花を摘んだり、虫に興味を持った帰り際には、年長児の畑でミニトマトを取ってご機嫌な散歩をしています。

～離乳食～

初めての保育園生活となる0歳児クラスでは、まず信頼関係を築くことを大切にしながら生活作りや離乳食の取り組みをしています。『どの子ども意欲を持って喜んで食べる子にしたい』『どの子ども食べる機能にあった離乳食でモグモグ（カミカミ）ゴックンできる力をつけたい』という願いを込め野菜スープをあげることから始めています。子ども一人ひとりの発達を見極めながら形状や量など無理のないようにすすめ、保育室には離乳食のサンプルを置き参考にしてもらい、家庭との差が生じないようにすることを心がけて取り組んでいます。そして、子どもの姿を同じ目線でとらえるために、保育士と栄養士が毎月話し合いを持ち食事目標をかがげ父母にも配布しています。



また、保育園生活を安心してスタートしてもらうために入園前に保育士と栄養士が、離乳の様子を聞く場を設けています。

③ 利用者から

“なかよし”には調理室が設置されていて、調理の先生方が子供たちのために色々な食材を取り入れた食事を丁寧に手作りしてくださっています。うちの子は、生後1ヶ月で入園して4年目になりますが、うちでは食



べられないけれど保育園ではおいしく食べられる野菜というのがいくつもあります…。

また、広いホールもあり、雨や雪の日でもピアノにあわせて体を動かす“リズム運動”をしたり、お友達と走り回って遊んだり、のびのびと生活しています。

入園するときは初めての子供でもあり必要な心配もしましたが、先生方のきめ細やかな保育とお友達との集団生活を通して子供が得るものは大きいと日々感じております。



なかよし保育園では、産休明けから就学前までのお子さんの保育をしています。

入園は随時受け付けておりますので、詳しくお知りになりたい方はお気軽にお電話ください。（内線55113 外線626-4259）

*『保育園紹介のしおり』『入園のしおり』が職員組合とE-unionにおいてあります。

（文責：主任保育士 大平 寿子）



省エネ推進委員会だより

今回は、『温室効果ガス』について取り上げてみたいと思います。

温室効果ガスは二酸化炭素の他に何種類もあり、気温を保つ役割があると同時に増えすぎると温室効果を招いてしまい、地球温暖化が進みます。

温暖化を防止するために採択された京都議定書で日本は、温室効果ガスの排出量を1990年度比で2008年～2012年迄の間に6%削減する目標を設定しています。しかし、2008年度の排出量が1990年度比で1.9%増加し、達成には現状から8%程度の削減が必要という厳しい状況にあります。

この京都議定書の目標を達成するには、「温室効果ガス＝二酸化炭素」の抑制が急務な状況にあります。二酸化炭素はおもに生物の呼吸や自動車の排気ガス、また発電所での発電時の排気ガスなどから発生します。地球温暖化防止のため、自動車のアイドリングストップや節電・節水など『地球にやさしい生活をしましょう。』



● 第42回動物慰霊祭が行われる

第42回動物慰霊祭が、平成21年9月29日(火)午後3時から報恩寺(盛岡市)において大堀理事長をはじめとする本学関係者約60名のほか、医学部・歯学部 of 学生約150名が参列して厳かに執り行われました。

式では、昨年度実験に共された動物6,292霊に対して、遠山稿二郎動物実験センター長(右写真)から慰霊のことばが捧げられました。住職による読経に続いて、参列者全員で焼香し、医学・歯学のために貢献した動物の霊に対して感謝するとともに霊の安らかならんことを祈りました。



● 院内がん登録に関する講演会が行われる



平成21年10月20日(火)午後6時から本学講堂(歯学部4階)において、院内がん登録に関する講演会が行われ、総勢約80名が参加しました。

当日は、藤岡腫瘍センター長にご挨拶を頂いた後、菅井がん登録室長の司会のもと、国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部 院内がん登録室長の西本寛先生(左写真)を講師に「院内がん登録の現状と課題～どのような展開が可能か～」についてご講演を頂きました。がん登録が標準化されているアメリカの現状と比較し、がん登録実務者を育成することにより、国内における標準的ながん登録の普及が可能となり、登録数や精度の向上が図られ、がんに対する情報収集・分析が可能となることの説明がありました。

がん登録に関する講演会は今回が初開催ということもあり、参加者はメモをとりながら熱心に耳を傾けていました。

● 岩手恵眼会総会が行われる

平成21年10月24日(土)午後1時から本学講堂(歯学部4階)において、岩手医大眼球銀行登録者の会である岩手恵眼会の第52回総会が行われました。総会には、岩手恵眼会の佐々木達人会長をはじめ、岩手医大眼球銀行総裁の小川彰学長(右写真)ら約230名が出席し、献眼物故者に黙祷を捧げたほか、佐藤事務局長から活動状況について報告がされました。

また、本学内科学講座神経内科・老年科分野の高橋智准教授による「認知症を理解する」と題した講演も行われ、出席者が耳を傾けていました。



● 平成21年度総合防災訓練が実施される



ストレッチャーを使った避難誘導訓練

平成21年10月29日(木)午後2時から本年度第5回総合防災訓練が行われ、職員約85名が参加しました。

今回は、震度6弱の地震が発生し、その後東病棟7階家族控室から出火したとの想定で、東病棟7階(出火階)・8階(直上階)を中心に通報・初期消火・避難誘導等一連の訓練が行われました。

各種訓練終了後、盛岡中央消防署員から「屋内消火栓の取り扱いは良かった。館内放送を迅速に流すように、また避難誘導は大きな声で行うように、人命の安全を第一に考え、さらに訓練を行って下さい。職場はもとより各家庭においても火災予防にご協力をお願い致します」との講評がありました。

● 秋季医療安全講演会が行われる



秋季医療安全講演会が、11月2日(月)、7日(土)、10日(火)、13日(金)の4日間にわたり歯学部4階講堂にて行われました(初日以外は録画映像による講演会)。

今回の講演会は、仙台往診クリニック院長の川島孝一郎先生(左写真)を講師に「終末期医療と生命倫理」について行われ、4日間総勢約1,620名が参加しました。

講演では、終末期に使う「ことば」の意味について様々な解釈があるが、「生命の尊厳」に関わることであり正しく解釈する必要があること、また、終末期医療のキーワードは「生活の質」であり、「プロセス」が重要であることのお話がありました。

人の生命に深く関わる医療従事者にとって今回の講演は、「生き方」について考える貴重な時間となったようです。

● 平成21年度ボイラー安全祈願祭が行われる

平成21年11月10日(火)午後5時から西病棟地下1階ボイラー室において、平成21年度ボイラー安全祈願祭が行われ、大堀理事長、小川学長をはじめとする本学関係者約20名が出席しました。

神官による神事では、祝詞奏上・清払いの後、大堀理事長をはじめ本学関係者による玉串奉奠が行われ、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。

このボイラー安全祈願祭は、ボイラーデー(旧称:汽缶祭)にちなんで毎年行われているもので、ふいご(鞆)を用いる刀鍛冶などの間で、毎年11月8日になると鍛冶場を清掃し、火の神に感謝する習わしがあったことから、その日をボイラーデーと決めました。なお、本学のボイラーデースローガンは、「気の緩み、心の緩み、引き締めてボイラー作業の無事故無災害」です。



玉串を捧げ安全を祈願する大堀理事長

● 理事会報告 ●

■ 9月定例(9月28日開催)

1. 教職員の人事について

＜昇任＞

医学部細菌学講座嘱託准教授 高橋 清実(前講師)
(平成21年10月1日付)

2. 平成22年度予算編成方針について

総合移転整備計画で予定されている附属病院・学部移転の早期実現のため、教職員一丸となって、可能な限り圧縮した予算を目指した予算編成をしていくこととした。

3. 編入学に係る学納金等について

＜医学部編入学＞

平成22年度から歯学部卒業生だけではなく、一般公募制により若干名を募集し、現行どおり3学年への編入学とする。

＜歯学部編入学＞

平成22年度から新設し、一般公募制により、4年制以上の大学を卒業した者(学士)若干名を募集し、第2学年への編入学とする。

＜編入学者への学納金等＞

当該年度の入学金と同額とし、授業料及びその他は編入学年の一般学生と同額とする。

4. 医学部定員増及び学則変更認可申請について

平成22年度の増員計画として、地域医師確保5名

(岩手県5名)、歯学部歯科学入学定員の削減に伴う大学の特例5名の計10名の入学定員増とする。また、学則第28条に「編入学」の文言を新たに追加したことに伴う編入学者の授業料等を学則に明記することとした。

5. 歯学部講座再編について

今回の講座再編は、本学の今後の全体計画の中での位置付けとし、再編計画は暫定的なものと位置付け、平成23年3月までに教育、研究、診療の連携を軸に医学部と歯学部の連携された講座再編を再度検討することとした。

6. 薬学部附属植物園に係る組織規程の一部改正について

これまで法人の組織規程内に規定されていなかった薬学部薬用植物園について、設置に係る規定の追加及び組織機構図への追加について承認した。

■ 10月定例(10月26日開催)

1. 次期病院情報システムの更新について

ハードウェア保守契約期間が平成23年3月をもって満了となるため、次期病院情報システムについて、導入メーカーを富士通、基幹システムを電子カルテとし、フルオーダーシステムパッケージとする計画で進めることとした。

新生児医療を取り巻く現状

テレビのニュースや新聞で、「妊婦のたらい回し」や「新生児のたらい回し」の記事をよく耳にします。産科医、新生児科医の不足が原因ですが、多くは、NICUの満床が理由で断るようです。岩手県の場合は、周産期医療体系が整備されており、全国で問題となっていような「たらい回し」ということはありません。したがって、「最後の砦」である岩手医大のNICUの重責は大きく、壊れかけながらも踏みとどまっている現状が続いています。NICUのベッドが不足しているにもかかわらず、一方ではハイリスク新生児は増加している傾向であり、未来を担う大事な子ども達をいかに守るかは、大きな社会問題にもなっています。だからこそ、NICUで働く我々の役割は大事だと思いますし、「新生児集中ケア」認定看護師として、そこにやりがいを感じています。

「新生児集中ケア」認定看護師

「新生児集中ケア」認定看護師は、広島県看護協会で教育が行われ（写真1）、平成17年より活動が開始されました。私はその1期生になります。「急性期にあるハイリスク新生児の治療・療養経過中に生じ得る身体的および心理社会的有害事象に対して予防的観点から働きかけ、発達促進的、個別的なケアを実践する」という役割があります。活動場所は主にNICU内に限られています（写真2）。現在は全国に140名ほど「新生児集中ケア」認定看護師が活躍していますが、岩手県には、1名、東北でもまだ3名しかいません。



写真2 NICUで活動中の筆者



写真1 教育が行われた広島県にある原爆ドーム

性期にあるハイリスク新生児の治療・療養経過中に生じ得る身体的および心理社会的有害事象に対して予防的観点から働きかけ、発達促進的、個別的なケアを実践する」という役割があります。活動場所は主にNICU内に限られています（写真2）。現在は全国に140名ほど「新生児集中ケア」認定看護師が活躍していますが、岩手県には、1名、東北でもまだ3名しかいません。

院内活動

認定看護師会の活動として、「新生児集中ケア」認定看護師研修の開催をしています。「新生児の皮膚ケア」「ディベロップメンタルケア」「新生児の感染」「最新の新生児蘇生法」などのテーマで研修をしています。NICUや周産期センター、中5階で新生児のケアに関する勉強会も行っています。

院外活動

1期生ということもあり、広島県看護協会での「新生児集中ケア」認定看護師教育課程で講師を務めました。岩手県看護協会での研修では、「新生児・未熟児の観察と緊急時の対応」や「新生児の蘇生・呼吸管理」について、助産師職能団体からの依頼では、「最新の新生児蘇生法の演習」などの講師を務めています。また、地域との関わりにおいては、久慈地区周産期勉強会の講師を担当したり、岩手県周産期医療情報ネットワーク整備検討会の分科会に参加し意見を述べています。「こどもケア」や「Neonatal Care」の雑誌投稿で、当院NICUの看護ケアの紹介や、新生児の生理的特徴や呼吸管理等の説明を行っています。

最後に

これからも、未来を担う新生児、未熟児のために、NICUの仲間たち（写真3：前列左端が筆者）と協力して、新生児看護の質の向上に努めていきたいと考えています。



写真3 NICUのスタッフ

細胞病態生物学講座

本講座は、平成19年4月の薬学部発足とともに矢巾新キャンパス研究棟三階に開設され、約2年半が経過した。開設当初は立派な景観ながらもやや殺風景な校舎でしたが、緑化整備も徐々に進み、樹々の緑も鮮やかな立秋を迎えている。当講座は開設まで共同研究部門・薬学研究センターとして内丸2号館に小さな研究室を構え、現職員の北川隆之教授、奈良場博昭准教授、佐京智子助教の3名で「動物細胞における糖輸送タンパク質の発現と細胞膜分布に関する細胞生物学研究」を行いつつ、開設準備を2年間担当した。開設後は上記3名の他米国UCLAより渡辺勝助教を迎え教育（講義・実習・演習）と研究を行っています。来年度からは4年生が各講座に配属となり我々の講座（職場）もよりにぎやかになることでしょ

う。“和やかさと厳しさを備えた職場づくり”をめざして、一座建立の精神でがんばっています。

（教授 北川 隆之）



視能訓練室

視能訓練室は、視能訓練士6名と黒坂大次郎室長（眼科学講座教授）の計7名で構成されています。業務内容は、約30種類の眼科機器を用いて①診断や治療に必要な眼科一般検査②白内障、緑内障、糖尿病網膜症、LASIK、斜視などの手術に



必要な精密検査等を行います。例えば脳外科から依頼される視野検査、耳鼻科、形成外科、神経内科などから依頼される眼球運動等の評価も私たちが対応しています。さらに専門的な知識と経験を要する③斜視、外傷、様々な原因で生じた外眼筋麻痺や機能的弱視などに対する視能矯正④先天・中途視覚障害（児）者に対するロービジョンケア業務にも力を注いでおります。部署に置き換えれば、様々な臨床検査部門や放射線部門、医療相談部門からリハビリテーションに至るまで、あらゆる機能を統括した役割を担っているのが特徴です。連日、眼科へ訪れる100～300名の患者さん一人ひとりが質の高い医療を受けられるよう、丁寧に対応して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

（視能訓練士 昆 美保）

看護部（西病棟5階A）

小児科病棟の対象年齢は新生児から成人までと幅広く、疾患は小児がん、神経・消化器・呼吸器・泌尿器疾患・感染症、不慮の事故など多岐にわたっているため、小児の特性と個別性をふまえた看護を大切にしています。

その方法の一つに疾患や、治療、ケアについて説明を行ない、同意を得ることを目的に「プレパレーション」を行なっています。こどもたちが安心を感じることができる環境を整え、年齢にあった言葉かけや説明を行ない、こどものがんばりを褒める事に努めています。また、家族の精神面をマネジメントする「メンタルリエゾンチーム」を結成し、小児がんや難治性の疾患をもつ患児の家族に面接を行ない、より個別的で必要なケアができるようにしています。

病棟行事ではスタッフもこどもたちに負けない

くらい楽しい時間を共有しています。こどもたちの笑顔が次の治療をがんばる意欲に繋がっていくことを願って、笑顔で元気に優しい看護をしたいと思います。（主任看護師 田村 ヤス子）



山より温泉？

薬学部臨床医化学講座 助手 高 橋 巖

趣味ですと、胸を張って言えないものの、最近は年に数回登山をします。

きっかけは、溪流釣りで。好きでよく山奥に入るので、ある日、途中で出会ったご年配の釣り師から、「その昔、またぎと呼ばれる人々が冬の蛋白源確保のため名もない山上湖に川魚を放流していたらしい。今は相当巨大化しているみたいだよ」との素敵な情報を仕入れ、いそいそと国土地理院の地図を片手に気楽な装備で目的地を目指しました。が、さんざん迷ったあげく結局たどり着くことはできませんでした。その時、山にはよく行くのに、山の知識がほとんど無いことに気づき、知識と経験を得ようと登山を始めたのでした。

動機が不純だったため、今でも、同行者について行くのがやっとなのですが、山頂へ到達したときの達成感は、普段、運動をしない私にとって貴重な体験です。もっと魅了されたのは、下山後の温泉宿、ぐったりした体に追い打ちをかけるように、強烈な温泉につかり、同行者と酔

いつぶれる開放感でした。また、翌日以降もかすかに残る温泉の香りで、仕事をしていても楽しかった思い出が時折甦ってきて、リフレッシュ効果が持続しているような気分に入れます。

岩手県は、岩手山や早池峰など魅力的な山々がそびえ、温泉も多数存在し、隣県には川原毛、一本松、安比温泉等の秘湯も多いようです。最近では、山より温泉のみの事が多くなってはいますが、やはり登山後の温泉の方が魅力が勝る気がします。訪れたい場所が多いこの地で、足を運べる機会は減ってきているものの、少しずつ開拓していければと考えています。



柴安岳（しばやすぐら：福島県）頂上にて（後ろが尾瀬沼、真ん中が筆者）

描きたい画は……

中央手術部 看護補助 藤 村 志 穂

私が画を描き始めたきっかけは、偶然というのが一番しっくりくる。数字や英語が苦手だったから、それらの試験がない大学を受験していたら美大生になっていた。それが、“画を描き始めた”きっかけと言える。

きっかけはそんなものではあるが、今の私にとって描くことは、無条件で絶対的なものである。

画というものは、“対話の感動”が描かせてくれる（そう私は信じている）。ここでの対話とは、画の対象物との対話のことであり、大体において“自然との対話”となる。自然の恵みは、万物にあまねく平等で、分けへだてがない。太陽は、人にも動物にも何に対して同じ様に日差しが注いで



いる。あの人はいい人だから照らすけれども、この人は悪い人だから照らさないといったことは決してない。己の立場にとらわれない、ただ



「亡父との語らい」（描き途中の画）

自然の理法に従っている。月しかり、風しかり、山野の草木も同様でそうした自然の営みが美しい。だから自然は朽ちても美しく、描きたい気持ちがわきあがる。感動する心が描きたいものを描かせる。

ふるさと岩手はそういった自然があり、思い出や憧れ、夢、空想そして現実などが豊かにある場所だ。それらが、私の画をつくりあげている。

私の思う画描きは、自然しかりだ。何も画を描いたり、楽器を奏でたり、文章をひねくったりすることだけではない。素っ裸で、豊かに、無条件に生きることを教えてくれる。

“私が自然の美しさに感動するように、自分の作品に風や空気が流れ、光や水、愛が溢れ、大自然の中で感動と同じような想いが伝えられたらと願う”

すこやか スポーツ歯学講座

No. 11

総合歯科学講座
(歯科放射科学分野)

講師 泉澤 充



CTを用いた口腔領域に発生する疾患の画像診断について

口腔領域には、舌、歯肉、粘膜、顎骨（上顎、下顎）などに発生する様々な病気があります。それらの診断には、単純エックス線検査、MRI、CT、超音波検査、FDG-PET検査などがありますが、歯源性（歯の組織が原因となる病気）嚢胞や腫瘍などは、顎骨に発生することが多く、単純エックス線検査やCTなどが多用されます。現在CTはマルチスライスCT（医科用）とコーンビームCT（歯科用）の2種類を使用しておりますが、それぞれに特徴があります。

●マルチスライスCT

- ・軟組織（筋肉、粘膜、歯肉等）の濃淡が明確である。
- ・広い範囲の撮影ができる。
- ・撮影時間が短い。
- ・造影剤を使用できる（組織の濃淡をより鮮明にする薬剤）。

●コーンビームCT

- ・硬組織（骨の構造）の濃淡が明確である。
- ・狭い範囲の撮影もできる（写真1）。
- ・被ばく量が少ない。

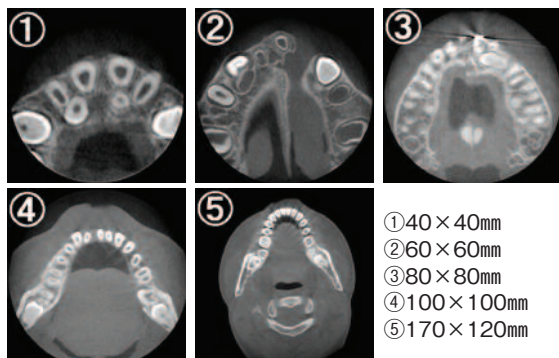


写真1 コーンビームCTの撮影範囲

①40×40mm
②60×60mm
③80×80mm
④100×100mm
⑤170×120mm

- ・歯の内部の詳細な観察が可能である（写真2）。

以上の特徴を考慮し、様々な病気の検査を行っています。

コーンビームCT マルチスライスCT

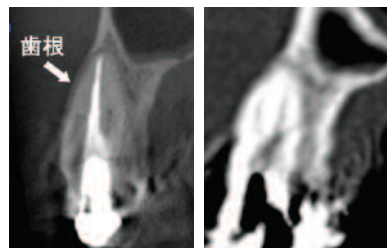


写真2 歯牙の細部まで観察できる

どのような病気のとときに使用されるか。

●マルチスライスCT

- ・病気の範囲が大きいとき
- ・病気が軟組織にまでおよんでいるとき（写真3）

●コーンビームCT

- ・病気の範囲が小さい
- ・病気が骨の中に限っているとき

顎骨内の病気は症状が無い場合が多く、病気が大きくなってから発見されることが多いです。通常のエックス線撮影でもある程度の診断が可能ですから、う蝕も含め定期的な検診をお勧めします。

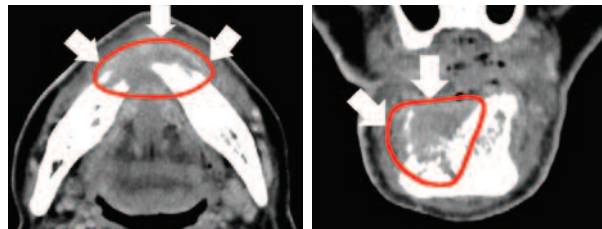


写真3 下顎歯肉癌（腫瘍が顎骨に浸潤している）

●編集後記

季節の風を感じないままに、目の前の暦も残り一枚になってしまいました。今号は「がん患者・家族サロン」特集です。サロンの隣で仕事をしていますが、ボランティアと患者さんの笑顔が絶えることはありません。はたしてこのパワーはどこから湧き出してくるのだろうかと考えさせられた一年でした。

大学報は来年度から毎月発行の予定です。皆様からの投稿をお待ちしています。

(編集委員 佐々木 光政)



今号は私達が担当しました（左から）
佐々木(志)委員、佐々木(光)委員、寺田委員

岩手医科大学報 第401号

発行年月日 平成21年12月25日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株)盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp